

教育研究業績概要

氏名 土田 幸子 ()		
研究分野	所属学会等の名称	
精神看護学	日本精神保健看護学会、日本児童青年精神医学会、日本家族看護学会、日本トラウマティック・ストレス学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本精神神経学会、日本公衆衛生学会、日本子ども虐待防止学会、日本うつ病学会	
担当授業科目名 精神看護援助論、人間関係・家族関係（カウンセリング含む）、精神障がい患者と家族の看護、精神看護学実習、精神・在宅看護実習、統合実習、看護専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業課題		
教育上の能力に関する事項		
事 項	年	概 要
1 教育の実践例、教育に関する評価等 1) 担当授業の効果的な教授方法の工夫 2) 実習の効果的な運営	2015年～ 2016年～	授業の最後に毎回小テストを取り入れ、学生の理解状況を確認しながら、不足している部分を次回の授業で説明し、絶えず理解を補いながらすすめるようにした。フィードバック用紙に書かれた学生の疑問や感想に答えるようにした結果、当初は質問を書く学生が少なかったが、次第に質問が増え、関心を持って授業に取り組ませる工夫ができた。精神障がい患者と接した経験のない学生が症状や看護実践をイメージしやすいよう、視聴覚教材を取り入れたり、事例を取り上げるなどの工夫を行っている。 教員間で意見交換を行い、隣地実習における指導上の問題や指導方法について深めるようにしている。精神看護学の場合、変化が目に見えにくく、学生が実施したケアの効果に気づきにくいため、症状の変化など着眼点を伝えることで、学生の気づきを促し、学生の実習意欲につながるようにしている。
2 作成した教科書、教材、指導書等 1) 事例で学ぶ看護過程 Part1（第2版） 2) 事例で学ぶマンガでわかる精神科看護の非言語的コミュニケーションUP術 3) 疾患と看護過程 実践ガイド(改訂版) 他、5件	2014年 2010年 2007年	共著、学習研究社。大西和子、 <u>土田幸子</u> 他、「摂食障害」(pp222-233)、「統合失調症」(pp254-266) 共著、メディカ出版。平澤久一、 <u>土田幸子</u> 他、「症状別コミュニケーション技術の実際の中、躁状態の患者の場合、音声・沈黙・間を活用したかわり」(pp117-121) 共著、医学芸術社。長谷川雅美、林優子、 <u>土田幸子</u> 他、「統合失調症」(pp752-763)、「人格障害」(pp786-797)
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等 1) 三重県准看護師試験委員 2) 三重大学教員免許更新講習における講師	2009年～2015年 2010年～2015年	三重県准看護師試験委員の任命を受け、「精神看護学」の問題作成や作成された問題の確認を担当している。 「保健室における相談活動」を担当し、精神的問題で保健室を利用する児童・生徒への対応を講義している。
職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項		
事 項	年	概 要
1 資格、免許、特許、受賞等 1) 看護師免許 2) 小学校第1種教員免許 3) CARE シニアトレーナー 4) PCIT 認定セラピスト 5) 日本ソロプチミスト財団 社会ボランティア賞 6) Best Poster Award	1986年 1998年 2014年 2018年 2012年 2016年	厚生省 東京都教育委員会 CARE (Child-Adult Relationship Enhancement) -Japan 認定 PCIT (Parent-Child Interaction Therapy) International 認定 「親&子どものサポートを考える会」の活動に対して Transgenerational Mental Health & Fifth International Conference on Families and Children with Parental Mental Health Challenges で発表したポスターに対して

<p>2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等</p> <p>1) 親&子どものサポートを考える会 世話人代表</p> <p>2) 「精神障がい親と暮らす子どもの現状と支援」をテーマにした講演</p>	<p>2009年～</p> <p>2011年～</p>	<p>精神障がいの親と暮らす子どもに着目した支援を行う任意団体の代表を務め、親・子が支援を求めやすい環境になるよう、対象への支援や社会啓発を行っている</p> <p>市町や県の教育委員会、人権センター、子育てに関わる団体、精神保健福祉に関わる機関・家族会、関連学会などの依頼を受け、精神障がいの親と暮らす子どもの現状と支援について、講義している（これまでに48回、講演を実施）</p>
---	-----------------------------	--

研究業績等に関する事項

著書名、報告書名等	単・共著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
<p>(著書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親&子どものサポートを考える会」を設立して ・事例で学ぶ マンガでわかる 精神科看護の非言語的コミュニケーションUP術 ・新看護観察キーポイントシリーズ 精神科 I 	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2013年</p> <p>2010年</p> <p>2011年</p>	<p>医業ジャーナル社</p> <p>メディカ出版</p> <p>中央法規出版</p>	<p>統合失調症 6巻 P41-49</p> <p>「躁状態患者の場合 音声、沈黙・間を活用した関わり」・土田幸子 P117-121</p> <p>「2 精神症状と観察ポイント-強迫現象」・土田幸子 P127-131</p>
<p>(報告書等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・思春期精神科病棟における看護ガイドライン 児童・思春期精神科病棟の看護 基本のQ&A 	<p>共著</p>	<p>2012年</p>	<p>科学研究費補助金研究成果報告</p>	<p>船越明子、土田幸子、他6名。Q&Aの小冊子を作成。「暴力・暴言」を担当。</p>
<p>学術論文 学会発表等の題名</p>		<p>発表者名</p> <p>発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等</p>		
<p>(学術論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の親と暮らした経験のある成人した“子ども”へのアンケート調査 -子どもを対象とした心理教育充実のために- ・ドイツにおける精神に障害のある親を持つ子どもへの支援-CHIMPSに焦点をあてて- ・児童・思春期精神科病棟に勤務する看護師時看護実践の卓越性と看護経験 ・精神障がいの親と暮らす子どもの日常生活と成長発達への影響 ・児童精神科に入院する思春期年代の子どもの攻撃性の特徴-小中学校と児童精神科の比較調査より- 		<p>土田幸子、宮越裕治</p> <p>田野中恭子、<u>土田幸子</u>、遠藤淑美</p> <p>船越明子、<u>土田幸子</u>、他6名</p> <p>長江美代子、<u>土田幸子</u></p> <p><u>土田幸子</u>、長江美代子</p>	<p>鈴鹿医療科学大学紀要・第24巻・53-65・2018</p> <p>仏教大学 保健医療技術学部論集・第9号・P71-83・2015</p> <p>日本看護学会誌・34巻・P11-18・2014年</p> <p>豊田看護大学紀要・8巻・P83-96・2013年</p> <p>三重看護学誌・12巻・P83-92・2011年</p>	
<p>(学会発表等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Difficulties in daily living, psychosocial development, and the health of children raised by parents with schizophrenia ・Health Needs of Children Living with Mentally Ill Parents in Japan ・Web アンケートによる『子どもが求める親の障がいに関する説明』を把握する調査 ・精神障がいの親と暮らす子どもへの支援-子どものニーズ、困難、状況に巻き込まれなかった要素から支援を考える- ・精神障がいの親と暮らす子どもの支援-疾患や発症時の年齢、サポート状況による影響の違いに着目して- ・教員向け CARE ワークショップの実践 <p>他25件</p>		<p>Sachiko Tsuchida, Miyoko Nagae, Yuji Miyakoshi 他1名</p> <p>Miyoko Nagae, <u>Sachiko tsuchida</u>, 他3名</p> <p><u>土田幸子</u>、鈴木大、長江美代子、他3名</p> <p><u>土田幸子</u>、長江美代子、鈴木大、他3名</p> <p><u>土田幸子</u>、長江美代子、鈴木大、他3名</p> <p>土田幸子、服部希恵、長江美代子、鈴木大</p>	<p>Fifth International Conference on Families and Children with Parental Mental Health Challenges</p> <p>10th International Family Nursing Conference, 2011年, Kyoto</p> <p>第56回 日本児童青年精神医学会総会、2015年、神奈川</p> <p>第54回 日本児童青年精神医学会総会、2013年、北海道</p> <p>第53回 日本児童青年精神医学会総会、2012年、東京</p> <p>第5回 PCIT-JAPAN&CARE-JAPAN 合同研究会、2015年、東京</p>	
<p>(その他)</p>				